

浅口市 令和3年度 県学力・学習状況調査の概要

令和3年9月

浅口市教育委員会学校教育課

【調査概要】(R3 5/27実施)

○浅口市内 7小学校 3年生 252人、4年生 249人、5年生 269人

○浅口市内 3中学校 1年生 234人、2年生 225人

【学力調査の結果概要】

○平均正答率

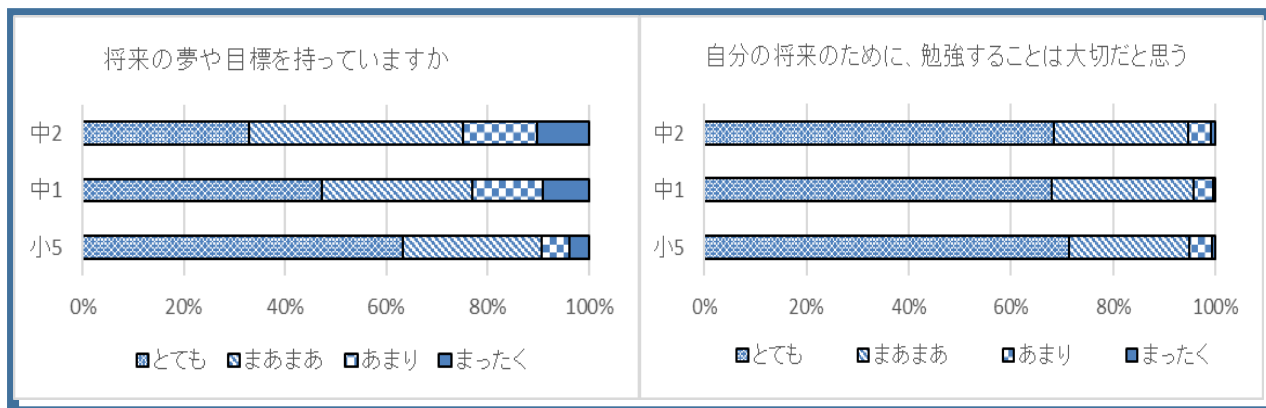
※R2年度は実施なし

	小学3年生		小学4年生		小学5年生		中学1年生		中学2年生		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	国語	数学	英語
目標値	71.3	73.4	68.5	69.8	65.6	65.2	67.4	68.3	65.3	59.7	56.7
浅口市	74.7	79.7	74.1	73.4	70.6	65.2	74.3	72.2	71.2	61	60.6
岡山県	72.9	76.6	71.1	70.1	69.4	65.0	74.7	69.3	71.3	60.5	56.9
全国	72.1	75.5	69.3	70.9	67.8	65.3	71.4	68.2	68.5	58.6	54.5

- 今年度の浅口市は、全学年全教科で実施業者が設定している目標値以上の正答率であり、全国平均に対しては小5算数を除いて上回っている。特に英語科については、全国平均より6.1pt上回っており、小学校から系統的に取り組んでいる英語教育の成果が表れている。全体的な傾向として各校が取り組んできた基礎・基本の徹底や授業改善の成果が表れていると考えられる。

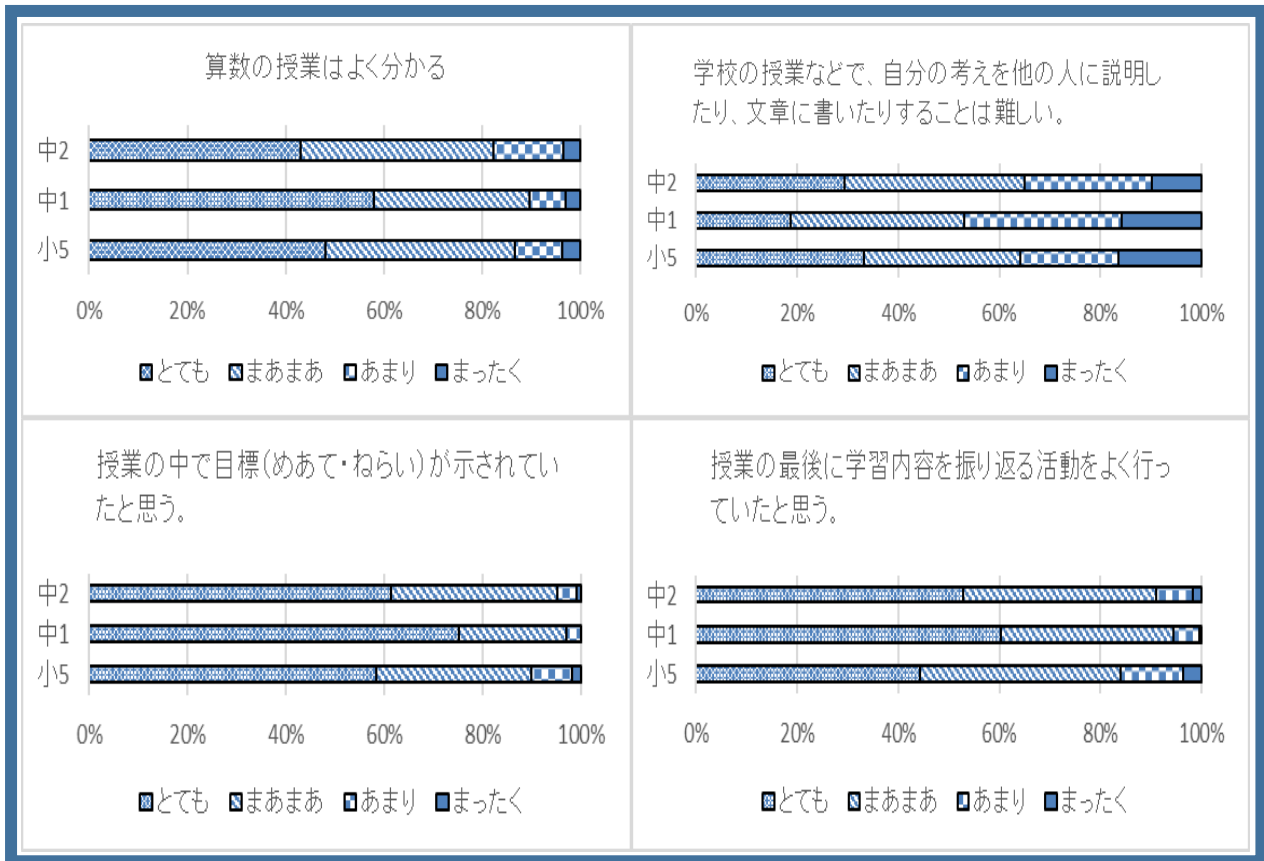
【学習状況調査の結果概要】

① 将来の夢や希望について



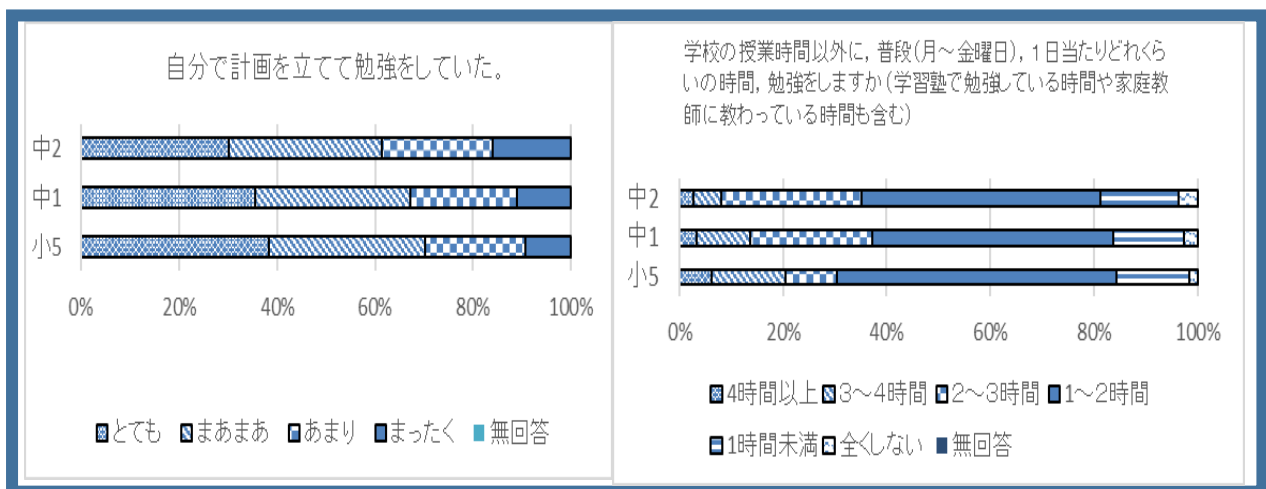
- 「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答が80%前後を示しているが、小5から中2にかけて年々減少傾向にある。
- 将来のために勉強が大切との認識は、どの学年も肯定的な回答が90%以上である。自己実現のために学習が必要だということをきちんと認識できている。

② 授業について



- 「算数（数学）の授業がよく分かる」について、肯定的な回答が80%程度であることは評価できる。授業の中でめあてを示すことや学習内容を振り返ることは肯定的な意見が90%を超え、ほとんどの授業で定着していることを示している。今後も岡山型学習指導のスタンダードの導入を徹底し、児童生徒に基礎・基本を着実に身に付けさせたい。
- 自分の考えを他人に説明したり、文章で表現したりすることに対して半数以上の生徒が苦手意識をもっている。

③ 家庭学習について



- 普段1時間以上の家庭学習を行う児童生徒の割合が80%を超えている。学校での働きかけや指導の成果が表れている。
- 「自分で計画を立てて勉強をしている」について、肯定的な回答をしている児童生徒の割合が年々減少しているのが課題である。学年進行とともにその割合が向上するよう、取組を工夫する必要がある。

【市教育委員会の今後の取組】

～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

□「良質な関わり合い」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 校内研等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりへ指導の充実。
- 放課後学習支援員（小・中学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

□「認める、ほめる、はげます」ことに焦点を当てたお互いの良さを認め合える学級づくりの推進

- 「学級経営アドバイザー事業」の推進による研修の充実。
- お互いの良さを見付け、伝え合う活動の継続。

□「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域の力を生活習慣の向上の取組に生かす。

□「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小・中一貫教育の推進

- 学習指導要領に基づく9年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- 中学校区で目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。